

一般

段級

碑も遠くにあらず。寺に入れて茶を

圃へつる物かなしと袂をぬらぬ。随土涙の石

先哀なり。女なれどもかひなく名の世に

軽く止める

軽く止める

〔奥の細道〕

悲しい。彼女らは、二人の夫の戦死の後、甲冑に身を包んで亡き夫らの姿を装い、兄弟の母を慰めたなど、そのかいがほしい話が伝えられているにつけても涙を誘われる。まさに墮涙の「石碑は遠くにあらず」だ。茶をいただこうと寺に入ってみれば、

